発行日：2022年10月16日

日本福祉大学 松本オフィス通信

第27号

No.1　学生奮戦記
No.2　ソーシャルワーク長野実習クラス
No.3　私の仕事「卒業生は今」
「下宿生×日福こそこそリアル話」
No.4　入試情報 & NIPPUKU NEWS

学生奮戦記

今回、奮戦記に登場してくれた学生は共に3年生。入学当初から新型コロナウイルスによる自粛を余儀なくされた中、どのようにして自分の居場所ややりたいことを見つけてきたのかをお聞きしました。

自ら行動することで得た学び

スポーツ科学部スポーツ科学科３年
平澤 和弥さん（長野県岡谷南高校出身）

福祉を強みとする体育教員を目指し…

日本福祉大学を目指したきっかけは、保健体育の教員免許と特別支援学校の教員免許を取得したかったからです。生まれ育った辰野町が日本福祉大学と交流連携協定を締結していたこともあり、自治体推薦入試で受験しました。

スポーツ科学部では中学校・高等学校の保健体育の教諭免許だけではなく、特別支援学校教諭の免許も取得できます。もともと、体育の教員志望ではありますが、特別支援を学ぶことで新たな視点を持つことができたり、指導のヒントに繋がる発見が出来たりと、大学で培った福祉マインドを自分の強みにするためにも意欲的に取り組んでいます。特別支援の活動では、障害を持つ人の特性についての学びを実際にその方たちと触れ合ったりしながら理解を深めています。ボッチャや車いすバスケットボールなど障害者スポーツを通しての関わり合いも多く、実際に現場で学びを深めることができるのも日本福祉大学ならではと言えます。現在、通常学級においても支援を必要とする児童・生徒が多い現状から、幅広い視野で子どもたちに寄り添える教員を目指したいと思います。

東海学生バスケットボール連盟での経験

学部での学びの他に力を入れていることは、部活動とは多少異なりますが、東海学生バスケットボール連盟という団体で主にバスケットボールの大会運営・審判活動を行っています。大会運営では、大学生の東海地区の大会(愛知、静岡、三重、岐阜)を行うために会場設営や理事会などを行っており、運営全般について日々学びながら活動しています。

また、日本のトップリーグであるジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（Bリーグ）やバスケットボール女子日本リーグ（Wリーグ）でのTO活動（テーブルオフィシャルズ）も行っています。TOは試合中の時間管理やスコアの記入などを担っており、審判と協力してゲームを円滑に運営するための非常に重要な役割を果たします。一般の人でもなかなか経験できない緊張感を味わうことができています。このように学内での学びに加え、学外で学ぶ環境が整っていることも大学生ならではだと感じています。

コロナ禍で気づいた自ら行動する大切さ

コロナ禍という特殊な環境下で大学生活をスタートしたため、人間関係では苦労しました。人とのかかわりが遮断されてしまったため、学業面での不安や友人を作るのが大変でした。大学内での活動が徐々に再開されると共に周りの方たちにも恵まれ、今では充実した生活を送ることができています。愛知県という離れた土地にいても（松本オフィスが発行する）オフィス通信などで長野県の様子を感じることができるので、地元に思いを馳せながら学びを深める日々です。

このような経験から私は自ら行動を起こしていくことが大事だと気づけました。その結果が今の充実した生活に結びついています。

今後の目標としては、今ある人間関係を大切にし、より多くのコミュニティを作り、人とのつながりを通してより一層人間的に成長できればと思います。

人との繋がりの中で得たもの

社会福祉学部社会福祉学科人間福祉専修３年
山上 結奈さん（長野県飯田風越高校出身）

Good Health Farmでの活動

私が所属しているGood Health Farmというサークルは、農業、商品開発、海浜の三つの分野で活動しています。活動内容はSDGsに即しており、大学周辺農家の人手不足・高齢化・余剰農作物の破棄といった課題や学生の野菜摂取不足に対して、Good Health Farm所属の学生が農作業を手伝い、農業従事者の身体的負担を減らし、農作物の循環を図ることを目的に双方の健康保持または増進を目指しています。また、普段農作業のお手伝いをさせていただいている農家から農作物を頂き商品開発を行うなど、農作物を介したソーシャルビジネスに発展させ循環型システムを構築させる活動を行っています。海浜についても同様に、キャンパス近隣の美浜町周辺海岸や海に生息する生き物、それらを食す人々の健康保持・増進のため、浜の清掃活動を中心に活動を行っています。

私がこのサークルに加入した理由は、地域の方々の力になれるという部分に惹かれたのと、その土地に住む方々の一員になれると感じたからです。長野県で生まれ育った私は、大学進学を機に家族と離れ、愛知県で暮らしていくことに当初寂しい思いでいっぱいでした。加えて、入学当初から新型コロナウイルスの影響によって学校内外の活動が制限されており、自分の居場所を見つけることにとても苦労していたように思います。しかし、このサークルに加入し地域の方々から愛知県のことを教えて頂いたり、同じサークルに所属している学生と共に試行錯誤しながら活動を行っていくうちに、次第に安心感が生まれ、私生活共にとても充実した大学生活を送ることができるようになりました。

スカラシップで得られる実践的な学び

サークル以外での私の日常にはスカラシップの特別育成プログラムがあります。スカラシップ制度はひと学年20人程度の学生が学年の垣根を越えて共に学びを深めます。こちらも新型コロナウイルスの影響で、予定されていた県外フィールドワークやゲスト講義等のプログラムは行われませんでしたが、縦割りでのグループワーク、オープンキャンパスでの企画・運営を共に行う中で、自分と相手を知ることや相手の意見に傾聴し尊重する姿勢の重要性を実感することができました。これらは普段の講義の中で学び、修得するものですが、スカラシップの活動を通して実践することで理解を深めることができ、よりその重要性に気づくことができました。生まれ育った場所や専修、目標のそれぞれ異なる学生がスカラシップという制度の中で一つの目標に向かうことで意見の不一致や衝突がよく起こりますが、そうした際に講義で学んだことを応用することで、問題の解決とともに自分たちもまた将来福祉に従事する者としての実践的な学び、経験ができていると感じます。

学びたい意欲を持ち続け、地域のために

私がコロナ禍であっても積極的に学び続けることができているのは、周りの組織や友人によって自分の居場所があると実感できること、また、実践的な学びの場が設けられていることで学びたい意欲が尽きないからです。

こうした環境があることに感謝しながら今後も一所懸命に学び、将来この4年間で得た経験を活かしながら地域に住む方々がいつでも安心して生活を営めるような環境を作りたいと考えています。

Good Health Farmの活動は右のサイトでも紹介しています。

特集!!

日本福祉大学社会福祉学部　長野実習クラスとは･･･

社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要なソーシャルワーク実習。日本福祉大学ではキャンパスのある愛知県内だけではなく、長野県内の福祉施設・事業所において実習を行うことが出来る長野実習クラスがあります（社会福祉学部学生限定）。

およそ1か月にも及ぶ長期の実習を故郷に帰って行えることは「長野県へのUターン就職に繋がる」、「実習に専念できるよう親元から通える施設が良い」などの理由から、毎年一定数の学生が長野実習クラスを希望しています。

今年度も社会福祉学部の10名が長野実習に向けて準備を進めており、実習に先駆けて行われた8月27日(土)の実習前面接指導では本学教員2名と実習指導講師3名との顔合わせの他、心構えや注意事項などの最終確認をしました。

実習期間中の指導は本学教員だけでなく、長野県内の福祉現場で活躍している本学卒業生も講師として担当し、実習施設との情報共有や実習中の学生からの疑問や相談に応じる体制が整えられています。

2年次の後期から約1年かけて準備を進めてきた学生たちですが、社会福祉士課程の集大成ともいえるソーシャルワーク実習がいよいよ目前に迫ったということで学生たちの表情にも緊張感が見られました。

これから長野実習に挑む学生、指導にあたる講師の先生、また、昨年実習を経験した先輩学生から、それぞれの思いをお聞きしましたので、ご紹介します。

※いずれも2022年8月に取材しました

実習生の声

人間福祉専修 3年
小路 日和さん（長野県上田千曲高校出身）

私は、9月から長野県上田市にある児童発達支援センターで実習をさせていただきます。実習では、障がいの種類によって得意、不得意がある子の特性に合わせた関わり方や支援方法を学びたいです。さらに、障がい児の保護者は子どもへの理解や障がいを受け止めることの難しさを抱えていると大学の講義で学びました。このことから、障がい児の支援方法と同様に保護者支援の実態について学びたいと考えています。

また、今回の実習では子どもの強みを引き出すことができるストレングス支援を実践していきたいです。子どもの成長の可能性は無限大にあります。その可能性から子どもの強みを生かし、子どもの自信や達成感、自己肯定感を高めることができるような支援方法を修得したいです。

私は将来、高等学校福祉科（福祉コース）教員を目指しています。生徒の視野を広げることができるような教員になるため、大学で多くのことを学び、実習や所属サークルGood Health Farm(農業ボランティアサークル)を通して多様な経験をしたいと思います。未だに、新型コロナウイルスが蔓延しており実習にも不安がありますが、貴重な経験ができることに感謝し、有意義な実習を行いたいです。

行政専修 3年
木野村 帆波さん（長野県塩尻志学館高校出身）

私は長野実習に臨むにあたって、利用者の方をつなぐ地域と施設の連携の形について修得したいです。

連携の形について学びたいと思ったきっかけは、大学1年生の時に出会った司法福祉です。講義の中で、刑務所に収容されている受刑者の方が、出所後に地域での居場所を作れずにいたことで、再び罪を犯してしまうという問題が起きていると知り、関心を持ちました。受刑者の中には発達障害や知的障害のある方もいます。その方たちが出所後に必要な支援を受けられないと、刑務所の中にしか自分の生活する場所を見出せず、再犯を繰り返すしか生きる術がないという悪循環を生んでしまう可能性が高まります。社会的孤立を防ぐためにも福祉の手を使って再犯の悪循環を断ち切るには、本人の努力だけではなく支える施設と地域との関係が深く成り立つことが重要だと思っています。

私が実習に行く施設では、利用者の方のほとんどが施設近隣の市町村出身です。元々その地域に関わってきた人たちが、施設で暮らしていくとなった際に、今までとは違った地域とのつながりを持つと思います。実習では、そうした新たなつながりを利用者の方との交流から感じとり、それらはどういった連携から生まれているのかを知るように努めていきたいです。

指導講師の声

社会福祉法人 上伊那福祉協会
箱山 み江子さん（本学卒業生）

長野実習面接会
（松本市内にて開催）

面接会当日、3名の学生さんにお会いしました。皆さん学校での学びとアルバイトやサークル活動、ボランティア活動を通じて学びを深めている様子をお聞きしました。行動が計画的でとてもかっこ良く、スマートな学生さんの印象を持ちました。

話の中で『不安が大きくなってくる!』と言われました。逆に未知の世界へ入る期待感でもありますよね。どうぞ実習では、驚いたり、悩んだり、ホロっとしたり体験を多くして、良い意味で…したたかに、しつこく、なぜこんな気持ちになるのか?なぜ引っかかるのか?等、目の前の現象がスーと通り過ぎるのではなく、そこで生活される生活者の視点を意識して、自分自身と向き合う振り返りを大事にしてくださいね。

Fight

社会福祉法人 茅野市社会福祉協議会
小池 恭平さん（本学卒業生）

帰校指導でこれから実習に臨もうとする学生のみなさんにお会いをして、私も同じような頃があったのかなぁと思うと「歳をとったなぁ…」というのが素直な感想です。それと同時に、これからの時代の福祉を支えていく専門職になろうとするみなさんのことがとても頼もしく見えました。

実習では、利用者や職員のみなさんなど、たくさんの人と出会う中で、学校では学べない多くのことを吸収してもらいたいと思います。また、この職員のこういう対応は良いな、真似してみたいなを見つけて、ぜひ実習期間中に実践してみてほしいです。いつか、福祉の現場でお会いできる日を楽しみにしています。

先輩学生の声

長野実習を振り返って･･･

人間福祉専修4年 南澤 夏樹さん（長野県篠ノ井高校出身）

3年次の10月から約1ヶ月間、長野市にある児童発達支援センターで実習をしました。児童発達支援センターとは、身体、知的、精神（発達）に障害があり療育が望ましいとされる未就学児が通所する施設です。

実習を振り返ると、もちろん悩むこともありましたが、それ以上に先生方と子ども達との関わりから学ぶことが多く、面白さや楽しさの方が印象深く残っています。その中でも特に忘れられない出来事があります。

それは一人の子が友達に手を出してしまう場面でのこと。手を出してしまう子は、相手に対してライバル意識を持っていたり、怖がる反応が面白かったり、叩いたりする時の筋肉の感覚の快感で日常的に手を出してしまうことがありました。私は手を出してしまった事を後で注意をするのが当たり前だと思っていました。しかし、先生方は注意をせず手を出してしまう子と相手の子の間に入り距離を取ることをしていました。この支援の目的は「それはだめ」と叱るのではなく、叩かないように子ども同士の距離を取るなどの代わりの行動を大人が示し、適切な行動を学んでもらうためであると先生方に教えていただきました。

友達との関わり方が分からなかったり、物事の善悪がついていない子どもは指摘をされても何を言われているのか理解が難しいため、代わりの行動を示すような対応策を途切れなくやり続けることが大切です。“正しい行動を学習したら大人が褒める” この繰り返しによって、子ども達は社会的に望ましい行動が身につくようになります。このような支援から、子ども達が適切なコミュニケーションを身につけ、今後小学校などの様々な集団で生活していけるようにすることが施設の担う役割であることを学びました。

良くない行動をした子どもに叱る、注意することは教育としては当たり前だと思っていましたが、実習での経験から物理的に環境を整え、叱る以外の方法で適切な言動を身につけてもらうという支援を初めて体験しました。そこから当たり前や普通と思っていることは果たして本当にそうなのかという視点を身につけることができました。長野県で実習ができて、馴染みのある地域に子ども達の療育の施設があることに気づけたことは長野実習を選択したからこそだと思います。

私は春から長野県の児童養護施設で働く予定です。実習で培った「子ども達の将来を見据えた関わり」を大切にして働きたいです。

ふくしのお仕事紹介 私の仕事 日福卒業生はいま

だれもがともに幸せになれる社会を目指して

社会福祉法人アルプス福祉会　村松功啓さん
（社会福祉学部第1部社会福祉学科　1986年度卒）

わたしが働く、アルプス福祉会・第2コムハウス（生活介護・就労継続B型事業所）は、利用者一人ひとりの「自分らしく働く」を軸として、障がいのある方の豊かな社会参加をめざしている通所型事業所です。

第2コムハウスの中心作業は、リサイクル（資源物回収）作業です。引き取り単価の変動、下落など課題はあるものの、作業の量、作業の収益ともに大きな柱となっています。

このリサイクル作業のはじまりは、第2コムハウスが開所した2004年にさかのぼります。開所当時の第2コムハウスの中心作業は、花栽培でした。また、アルプス福祉会が共同作業所時代から取り組んでいる、生ごみの発酵促進剤「ぼかし」づくりや、業者の委託をうけたポスティング作業などにも取り組んでいました。しかし、それらの作業になかなか取り組めない、あるひとりの利用者・Aさんがおられました。Aさんは、重い障がいのある方で、一日中、動き続けている多動な状態でした。

Aさんが「働ける」ようにするにはどうすればいいか

このことを、担当職員が中心となって懸命に模索しました。2004年当時、紙類などを中心にリサイクル推進とごみ減量をめざした取り組みが長野県で試行されていました。また松本市では、リサイクル推進と福祉事業所の仕事おこしを結びつけた取り組みがはじまっていました。

この動きをうけて、Aさんと担当職員が一緒に取り組み始めたのが、リサイクル作業でした。新聞、チラシなどの古紙を車で回収する。それを、リサイクル業者に持ち込む。最初は週に数回、短時間の取り組みでした。しかし、リサイクルの推進は時代と地域の要請でした。日を追い、年を追うごとに作業量、作業時間、作業収益が増えていきました。そして、第2コムハウスの敷地内に、地域の方が自由に資源物を持ち込んでいただくためのプレハブ小屋（回収ステーション）を設置し、その数を次第に増やして、現在は4棟になっています。

一方で、取り組み始めた2004年当時、リサイクル作業がここまで大きな規模になることを、わたしたちはだれも想像していませんでした。言い換えれば、多動で重い障がいのあるひとりの利用者さんが、まさに「さきがけ」となって、第2コムハウスの未来を切り拓いて下さったのでした。

困難を抱えた人を「導き手」にしてすすむ

リサイクル作業の開始と拡大の経験は、このことを、わたしたちに実感をもって教えてくれるものでした。
わたしたちの支援は、最初から「見通しが見えている」とは限りません。
また、「今ある見通しの範囲」だけでやろうとすると、そもそも、新しいものを生み出すことはできません。
いつも、わたしたちの眼前に「最初にあるもの」。
それは、当事者の生活実態からうまれる切実なねがいと、わたしたちに対応を迫る現実です。
そして、それに向き合おうとする支援者の思いです。
このことは、だれの支援であっても共通しています。
わたしたちは、困難なときこそ思いを重ね合い、それを支えにして現実の課題に挑むことができるのでした。

障がい福祉援助職は、障がいのある当事者を「導き手」にするとき、当事者が持つ人間的な力に気づかされます。そして、この仕事をすればするほど、自分のものさしが変わり、当事者も支援者も一緒に幸せになっていく…。

これが、支援者を「支援者にする方法」であることを、わたしは実践をとおして教わりました。この方法が、6年前の「やまゆり園事件」で報道された「障害者は不幸しかつくらない」という言葉に説得力を持たせない現実を、障がい福祉の第一線現場でさらにつくりだし、その現実が社会の隅々に伝わります。そしてこの積み重ねが、だれもがともに幸せになれる社会の基盤を、より確かなものに変えていきます。

これが、障がいのある人を支える仕事の奥深き意味ではないかと思っています。

社会福祉法人　アルプス福祉会
第2コムハウス・ゆい
松本市新村2750　TEL:0263-40-3366
http://alpsfukushikai.jp/

下宿生×日福こそこそリアル話 in 美浜オープンキャンパス

「コロナ禍で大学の授業はオンラインですか？」

2022年7月24日(日)美浜キャンパスではオープンキャンパスが開催され、在学生の本音が聞ける「下宿生×日福こそこそリアル話」の企画にはスタートから多くの高校生が来場され、大学生と談笑する姿が見受けられました。

トーク内容は、単位の取得方法や時間割の組み方など大学生活のことだけでなく、下宿選びや地域情報を含む一人暮らし事情、バイトの探し方やサークルと学業の両立方法のアドバイスなど話題は多岐にわたり、高校生からは具体的に「アパートの家賃はいくらですか」、「自動車免許はいつ取得しましたか」、「病気になった時はどうしていますか」など、質問がたくさん飛び交っていました。

高校生や保護者からの質問に対応してくれたのは、長野県や富山県など地方出身の在学生（1年生から4年生：13名）。「大学生になると自由になる時間が多くて楽しいけど、自分の行動に責任が伴ってくることを忘れてはいけない」、「親の有難みを感じている…最低限の炊事はやっておくといいよ」など、高校生の不安や悩みを少しでも解消し、大学生活がイメージできるよう、自身の成功談や失敗談をさらけ出しながら、リアルな大学生活を紹介してくれました。

そもそもこの企画は、大学生から「入学前に大学のことだけじゃなく、生活する環境のことも調べておけば良かった」のひと言がきっかけとなり始動したものです。受験生に大学の特長だけでなく、4年間生活する地域の特長や現状も知ってもらったうえで、日本福祉大学を受験し、日福メンバーになってほしいという願いが込められています。

学生自身もコロナ禍で苦しく、悔しい経験をたくさんしてきた分、「これから大学生になる後輩には同じ思いをしてほしくない」、「活気ある大学生活のために役立ててほしい」という思いを抱いて対応してくれました。そんな大学生の姿はおそらく高校生のみなさんにも頼もしく映ったのはないでしょうか。

来春、また皆さんとキャンパスで再会できることを楽しみにしています。

入学して半年の1年生も学生スタッフとして活躍しました！

教育・心理学部心理学科　1年
清澤 麻央さん（長野県田川高校出身）

今回のオープンキャンパスでの活動を通して、自分自身を大きく変えることができたと思います。

学生スタッフに挑戦してみようと思ったきっかけは、自分自身が大学生活を送る上で大変だったこと、実際に一人暮らしをしてみて感じたことなどを来場された高校生や保護者の方たちがイメージしやすいように伝えたいと思ったからです。初めての経験だったので、上手く話ができるのか不安でしたが、当日になると高校生・保護者の方たちから積極的に質問をしてもらい、自分の体験を交えながら話すことができました。自分としても貴重な時間を過ごせたと思います。普段は自分からイベント等に参加することがなかったのですが、今回学生スタッフを務めたことにより、初対面の人と話す楽しさを学ぶことが出来ました。この経験を活かし、これから出会っていく人たちとも楽しい会話ができるようにしていきたいです。

社会福祉学部社会福祉学科子ども専修　1年
西新 誌野さん（長野県長野東高校出身）

今回、友達からオープンキャンパスの学生スタッフを募集していると聞き、「一緒にやってみない？」と誘われて参加することを決めました。オープンキャンパスでは下宿生として実際にどのような生活を送っているのかを率直に高校生や保護者の方にお話しました。来場者と話をしていく中で、自分自身も改めて入学してからの4か月を振り返ることができ、また、一緒のグループで対応した先輩方のお話を聞いて、自分の将来を考えるきっかけにもなりました。

有志活動に参加するのは初めてだったのですが、多くの人とのつながりが出来、自分にとっても実りの多い経験となりました。これから自分をさらに成長させるためにも、さまざまな活動に積極的に参加していきたいです。

まだ間に合う！ 2023年度 入試情報

入学試験の試験会場に飯田会場を新設！

2023年度入学試験（2023年度4月入学生対象）の一般推薦入学試験及び一般入学試験の試験会場として、長野市・松本市に加え、新たに飯田会場が加わりました。愛知県に近い南信地域には日福の卒業生も多数！南信地域の皆さん、ぜひご利用ください。

10/29開催 miniオープンキャンパス in東海キャンパス

今年度最後のオープンキャンパスが東海キャンパスで対面開催されます。美浜キャンパスや半田キャンパスにある学部も含めた全学部の合同開催なので、幅広く学部を知りたい方にお勧めです。一部の企画はライブ配信でお届けしますので、お時間のある方はぜひご覧ください。

12/4 一般入試対策講座実施

募集定員最大の一般入学試験合格に向けて、河合塾講師による対策講座を開催します。科目別対策講座だけでなく、入試のポイントも説明します。また、来場特典として、希望者には赤本を無料プレゼントします。詳細は受験生サイトをご確認ください。

大学に関する情報を集めよう！

「日本福祉大学の歩き方」ご存知ですか？各入試の特長や日福に関するデータなど様々な情報が掲載されています。まだ見たことがない方は、お時間のある時にぜひチェックしてみてください。ここで紹介しているオープンキャンパスや対策講座の情報もリンクされていますので、最新情報をご確認ください。

受験生サイトもチェック！

日本福祉大学のことをもっと知りたい！思ったら、まずは本学HPの「受験生サイト」をチェック！大学・学部のことが一目でわかる「WEBオープンキャンパス」をはじめ、入試にまつわる様々な情報が入手できます。

過去問題集を配布中！

過去の入試データや最新の入試情報は、入試ガイドをチェック！過去問題を探り、出題傾向を知ることで合格を勝ち取りましょう！過去問題が必要な方は、サイトよりお申し込みください。

あなたに合った入試方式はどれ？

評定基準のない入試はありますか？

一般推薦入試がお勧め！

一般推薦入試は、評定平均値関係なく選考基準は「小論文試験」のみ。※他校との併願も可能で、一定の手続きをすることにより合格の権利は3月末まで留保しておけます。
また前期日程では松本市・飯田市の2会場で受験することができますので※、長野県の皆さんにも利用しやすい入試です。

※1 小論文試験後に、理学療法学専攻はグループ面接、看護学科はグループディスカッションを実施します。
※2 理学療法学専攻・看護学部は、本学（美浜キャンパス）のみで実施します。英語（記述式）とスポーツ課題文は、本学（美キャンパス）のみで実施します。

学費を少しでも安く抑えたいけど…

社会福祉学部志望であれば、**スカラシップ入試**でチャレンジしてみませんか？スカラシップ入試で合格すると、4年間の授業料と入学金が半額に！
一般入試【前期日程】B方式（2教科型）とセットなので、スカラシップを逃しても一定以上の成績の場合、一般入学試験での合格の権利が得られます。

一般入試で受験したいけど、国語が苦手…必須でしょうか？

日本福祉大学の**一般入試**は**必須科目がありません（国際福祉開発学部のみ英語必須）**。自分の得意な教科を活かした受験ができます。しかも「3教科型」「2教科型」「共通テストプラス」の3つの試験方式があるので、併願することで合格のチャンスも広がります！併願の追加検定料は5,000円とお得です。

NIPPUKU NEWS

寿齢讃歌 – 人生のマエストロ17 – が開催されました

本学が協賛している「寿齢讃歌-人生のマエストロ-写真展17」が9月10日～9月25日の間、茅野市美術館において開催されました。期間中の来場者は835名。

この公募写真展は本学の卒業生で客員教授でもあった故・木之下晃先生のプロデュースにより始まりました。おおむね75歳以上の高齢者を被写体とし、写真を通して、人生の達人であるお年寄りたちを称え、そこに写り込む地域文化を世界に届け、未来へ伝えていくことを目指しています。

17回目となる今年は、青森から沖縄まで15都府県99人が撮影した、72歳～102歳までの表情豊かなマエストロの姿が会場に展示されました。農作業に勤しむ姿、久しぶりに家族や友人に会えて喜ぶ姿など、ふだんのくらしの中で見せる一瞬の表情が切り取られたマエストロの姿は、作品を見ている私たちに勇気や未来への希望を与えてくれました。

コロナ禍でマスク生活が続き、人との距離感が難しくなっている昨今だからこそ、長い人生を積み重ねてきたおじいちゃん、おばあちゃんのしわや多彩な表情から伝わってくるメッセージを感じることができたのだと思います。

社会福祉セミナーin石川を開催！

社会福祉セミナーは社会福祉にかかわる研究、研修、実践を推進することを狙いとして、日本福祉大学と本学同窓会が共同で企画を検討し、大学後援会の支援も受けて年に1回実施しています。

2022年度は石川県をメイン会場に、皆さんと一緒に「ダイバーシティ」について考えていきたいと思います。性別や人種の違い、年齢、性格、学歴、価値観、ライフスタイルなどの個性の違いを尊重し、偏見や差別意識にとらわれることない社会をつくるためにはどうすれば良いでしょうか。

当日は記念講演や現場からの映像配信、スペシャル対談などを予定しています。なお、当日の様子はYouTubeよりライブ配信を実施しますので、ご自宅から視聴することもできます。（事前申込必要）お申込み、詳細はHPをご覧ください。

皆さんのご参加お待ちしております。

社会福祉セミナーの詳細はこちらからご確認ください

第34回　日本福祉大学社会福祉セミナー in 石川
テーマ：「ダイバーシティ×ふくし」
～当事者の「働く」から学ぶソーシャル・インクルージョンの実現～
日時：2022年11月27日(日)　13:00~16:30

日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815　長野県松本市深志1-1-24・3F
TEL：0263-31-9011　FAX：0263-32-8018
MAIL：e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
OPEN：火曜日～土曜日 9:30～17:30
CLOSE：日曜日・月曜日・祝日

入試のご相談・面談をはじめ、ささいな事でも、お気軽にご相談ください！なお、留守にしている場合がありますので、来室される場合は事前にご連絡いただけると幸いです。

日本福祉大学地域オフィスが発信しているSNSもチェックしてください。

松本オフィスへのご質問・ご相談・来室の予約はこちらのフォームから➡